

17氏が教壇に別れ

長年、学生の指導と研究に情熱を注いでこられた17人の先生方が定年退職で教壇を去る。池本正純経営学部教授、川村晃正商学部教授、荒木敏夫文学部教授の3氏からは専修大学での思い出や学生へのメッセージをいただいた。(9面に関連記事)

定年退職

※氏名、主な担当、主な役職名(在職年)

〔経済学部〕
相田慎一教授



〔社会経済学入門〕15年

黒田彰三教授



〔都市経済論〕。大学院経済学研究科長、キャンパス・ハラスメント対策

室長145年
西岡幸一教授



〔産業技術論〕19年

矢吹満男教授



〔日米経済論〕。大学院経済学研究科長141年

〔経営学部〕
池本正純教授

〔企業家論〕。学生部長、キャリアデザインセンター

シスター長143年

加藤茂夫教授
〔経営組織論〕。経営学部部長、体育部長、大学院経営学研究科長140年

〔商学部〕
梶原勝美教授



〔マーケティング論〕141年

川村晃正教授

〔商業史〕。産業史。商学部部長132年

関根孝教授

〔商学基礎〕。マーケティング123年

野呂進教授



〔スポーツ科学論〕。社会体育研究所長、陸上競技部監督・部長140年

前田和寛教授



〔国際分業と貿易〕129年

〔文学部〕
荒木敏夫教授

〔日本古代の王権と国家〕。文学部人文学科長、文学部長、副学長130年

石黒吉次郎教授
〔日本文学概論〕。文学

部国文学科長142年

大庭健教授
〔倫理学概論〕。図書館長138年

鐘ヶ江晴彦教授



〔生涯学習論〕。社会学部。文学部人文学科長138年

菊地健三教授

〔芸術学概論〕136年

〔法科大学院〕
石村修教授

〔統治の基本理論〕。今村法律研究室長、法科大学院長141年

依願退職

3月31日付
(カッコ内は在職年数)
鈴木秀光法学部教授 (13年)
潘阿憲法学部教授 (5年)
小山太一商学部教授 (7年)
平田一郎文学部教授 (14年)
滝沢誠法科大学院教授 (8年)

最終講義

写真説明は最終講義のテーマ



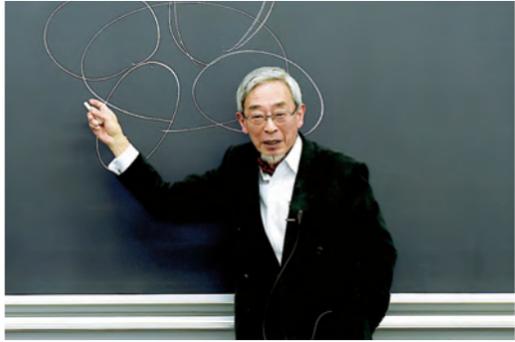
「カントと動力学の問題」 菊地健三教授



「心の見える企業」 加藤茂夫教授



「中世文学研究を考える」 石黒吉次郎教授



「構造的無責任と倫理」 大庭健教授



「憲法擁護義務と権力者の言葉」 石村修教授



「王権論の可能性」

小さな変化と大きな変化 荒木敏夫 文学部教授

日本史の教師を42年間務めてきたが、専修大学は30年の在職であった。この間、日本史研究に専念することもでき、未解明であった史実の検証や歴史的再評価を行い、それらを著書として刊行してきた。また、歴史を学ぶ楽しさを講義・ゼミナールで伝えるだけでなく、ゼミナールの夏季合宿では京都・奈良の史跡を探索してきた。このうち、史跡探訪は、前任校の時代も含め毎年ほぼ欠かさず実施してきた。おかげで、古都の飛鳥・奈良・

京都の歴史的景観の変化をみることもできた。小さな変化は、気づかないことが多いが、小さな変化の蓄積が大きな変化に連動することもある。歴史を研究する時にも、こうした視点をもつことが大切であり、重要な事実の発見につながる。卒業生の皆さんは、在学した4年間で学びえた知見、結んだ交友関係を大切にしてください。そして、時代の変化を的確にキャッチし、歴史への関心を深めてください。



「産業の近代化―連続と断絶―」

痛みが分かる人間になれ 川村晃正 商学部教授

君たちは今、これまでの「目守られた人生」から「自ら立って生きる人生」への転機に立っている。「社会」という大海に漕ぎ出すにあたって不安でいっぱいであろう。人間は未来を知ることができない。けれども過去は確実に知ることができ。君たちはこの4年間、良きにつけ悪しきにつけ大学でいろいろなことに出会い、多くの経験を積み重ねてきた。そして無意識的に「知性」「感性」「徳性」を磨いてきたのである。

ところで、究極的に「大きな器」の人間とは何か。僕は、「他人の痛み」が分かる人間だと思う。若き鳳よ、未来に向かって大きく羽ばたけ！



「研究と教育の軌跡」

自分らしい仕事を志そう 池本正純 経営学部教授

偏差値の高い大学からは大企業に入りやすく、一旦入れば生涯そこでぶら下がり生きていけるとよく言われたものです。しかしそれは高度成長時代に生まれたキャリア観に過ぎません。戦後、日本経済がまだ遅れていた時は先進国の進んだ技術を取り入れていけばよかったのですが、一旦追いついてしまうとマネをするものがなくなりました。激しい時代の変化の中でかつての大企業も行き詰まっています。今や大企業に成長しています。ビジネスの世界はかくもダイナミックに変化しています。そもそも学校のお勉強ができるだけでは社会で通用しなくなり、社会に潜む課題を発見し解決していく創造力が問われる時代になったのです。

そのためには、未知のものに挑戦する決断力や幅広く仲間をつくっていく人間関係構築力が欠かせません。このような人間力は何に支えられているのでしょうか。それは自分らしい仕事をしたいという志です。